

## 秩父十三仏霊場、長瀨七草寺霊場のバリアフリーに関する研究

## Study on barrier-free in the Chichibu 13 Buddha hallowed ground, Nagatoro seven herbs temple hallowed ground

宮瀧 聡史<sup>1</sup>, 田中 賢<sup>2</sup>Satoshi Miyataki<sup>1</sup>, Yasushi Tanaka<sup>2</sup>

Abstract: We investigated the barrier-free in the Chichibu district 2 hallowed grounds. Although the people who came by privately-owned car increased in late years, they have not been realized. The situation of the barrier of the route from the parking lot to the main hall is made into a drawing and analyzed.

## 1. はじめに

近年、各地の札所巡りやお城巡りが大衆化し、観光目的での巡礼が盛んになっている。

都心からのアクセスが良好で自然の美しさに囲まれた秩父地方には、秩父十三仏霊場、長瀨七草寺霊場がある。コロナ禍においても3密を避けられ、健康的に楽しむことができる巡礼だが、高齢者や障がい者にとって、階段などが物理的なバリアとなり巡礼を断念しているのではないかと考え、調査を行うことにした。

## 2. 研究目的

秩父地方の2つの霊場について、それぞれの地域との関係性などの社会的な違いを明らかにする。

また、それぞれの霊場が修行的な意味合いを持つ中で、階段数や高低差などの物理的比較、高齢者や障がい者の巡礼を補助するバリアフリー面での比較を行う。

## 3. 研究方法

地域との関係性について：秩父市役所観光課、秩父観光協会、長瀨町産業観光課、長瀨町観光協会に聞き取り調査を行った。

動線計測について：巡礼者の多くが車を利用して巡礼を行っているため<sup>\*1</sup>、秩父十三仏霊場、長瀨七草寺霊場の全ての寺院を訪問調査した。駐車場から観音堂までの動線を計測対象とした。水平距離はレーザー距離計測器（BOSH製）・メジャーで計測し、高度は高度計（SUUNTO製）を使用した（Figure1）。

バリアフリーについて：①多目的トイレの有無・内容、②メイン動線以外のスロープなどによる迂回ルートの有無、③駐車場からの距離、④階段の段数・勾配・手すりの有無、⑤路面の仕上げ状況を確認項目とした。

## 4. 結果および考察

本稿では秩父観光協会への聞き取り内容・結果（3.5.6.7.11は秩父札所連合会が回答）をTable1にまと

める。本調査により、地域との関係性について、各寺院が秩父地方ならではの文化・観光資源として地域に根付き、行政、観光協会らと連携して活動していることがわかった。

しかし、行政・観光協会は、各寺院とは情報交換をしていなく、細かなバリアフリー状況を把握していないことが判明した。巡礼者の多くが年配者であるため、細かなバリアフリー状況を把握する事は必須である。

また、コロナ禍により団体バスツアーがなくなり、自家用車で巡礼する人が増加したことが判明した。個人で巡礼する人が増えたということは、自分の身体状況に合わせて、無理をしない範囲で巡礼する霊場を選択できることになる。そのため、寺院の駐車場から観音堂までの動線や多目的トイレの設置状況など、巡礼のしやすさに関する情報を巡礼者に提供することは非常に重要と考える。

## 5. まとめ

「巡礼」という文化自体の継承のためにも、全ての寺院を巡礼できなくても、巡礼者の身体状況に合わせて参拝するような、気軽に楽しめる、柔軟な選択肢が求められる。そのために、各寺院のバリアフリー状況を把握する事は必要であり、それを目に見える形で表現することが文化の継承に一役買うと考える。

## 6. 今後の展開

秩父十三仏霊場、長瀨七草寺霊場を対象に駐車場から観音堂までの、メイン・迂回路の動線調査を行い、立位歩行の高齢者と車いす使用者の参拝のしやすさや、バリアフリー配慮などをまとめたバリアフリーマップの制作を行う予定である。

## 7. 参考文献

[1] 秩父観光協会 (<http://www.chichibuji.gr.jp/spot/spot-syouusai06/>)

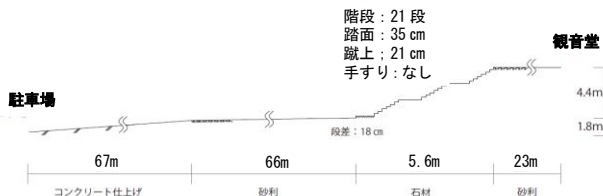
[2] 山岸大雅「秩父34か所のバリアフリーに関する研究」

1：日大理工・学部・まち、2：日大理工・教員・まち

Table1. Hearing investigation contents

コロナ禍以前の状況	秩父観光協会	秩父市役所観光課	長瀬町産業観光課
1 行政や鉄道会社、商工会議所と連携した活動状況	・行政(市)：夏祭り、秩父夜祭、芝桜まつり、アニメイベント等 ・商工会議所：写真コンテスト等	・観光協会：施設情報や利用者の傾向などの情報交換、イベント開催時の拠点施設として使用。 ・西武鉄道、秩父鉄道：観光客の誘客やイベント開催。 ・商工会議所、商店街：観光客の受け入れやイベント開催など。	・観光協会：長瀬町観光情報館の指定管理業務を委託 ・長瀬町商工会：町が実施する各補助事業における、町内商工事業者との連絡調整。 ・秩父鉄道：電車、駅構内を活用した広告PRや観光イベントの開催。 ・観光協会及び商工会が主催のイベントを実施する際には、町が後援。
2 各寺院との連携状況	・各寺院とは行っていない ・秩父札所連合会事務所と常に情報交換をしている。	・観光客の受け入れに前向きな一部の寺院との情報交換。 ・秩父札所連合会との情報交換	・情報交換等の連携は行っていない。
3 巡礼者の人数(平日・休日の差異、季節での差異)	・平日 3~10人、休日 7~20人程。 ・寺院の立地(街中に多く、山間部・町外れに少ない)にもよる。 ・春(4-5月)・秋(9-10月)が多く、冬(12-2月)は少ない。	・春、秋はお花や紅葉シーズンのため巡礼者が多い。	・長瀬町では年間約 300 万人の観光客が来訪し、春から秋にかけて休日の来訪者が多い。 ・厳密な人数は不明だが、年間で巡礼者は3万~5万人ほどだと思われる。
4 巡礼者の観光案内所の利用目的、利用人数	・目的：レンタサイクルの利用 ・人数：20~30人/月。		
5 巡礼者の性別・年齢・身体の健全度合。	・男性：1~2人組、50~70代が多い ・女性：2~4人組、40~60代が多い。 ・9割以上が健脚で、秩父札所を車イスで参拝可能(補助有を含む)なのは3分の1カ所程度 ・階段数の多い寺院への参拝は難しいと思われる。	・詳細不明	・男女共に、50~60代、2~3人組が多い。 ・大部分がハイカーのため、障害を持っている方たちはほとんど見受けられない。
6 各寺院内の動線、駅構内や市内のバリアフリー状況の把握の程度。	・概ね把握している	・HPで市内施設のバリアフリーマップを公開している。 ・各寺院の情報はまとめていない。 ・坂道や階段がある寺院は足の不自由な方が利用する際、障害になることがある。	・主な観光・公共施設周辺の状況は把握している。 ・寺院周辺の道路舗装整備やトイレの整備が課題である。
コロナ禍の状況	秩父観光協会	秩父市役所観光課	長瀬町産業観光課
7 巡礼者の交通手段 ※(): コロナ禍以前	・自家用車：70% (50%) ・タクシー：3% ・電車で来てレンタサイクル：3% ・電車で来て徒歩：5% ・電車で来て徒歩+バス+電車：15% ・団体バスツアー：0% (20%) ・レンタカー：3%	・自家用車、電車、バス、徒歩が多い。 ・(団体バス)、自転車数が少数。 (各寺院の所在地により交通手段も変化する。)	・寺院の最寄りの駅まで電車を利用、もしくは、有料駐車場に車を停める形が多い。
8 巡礼者の交通手段の変化	・電車利用者は激減した。 ・自家用車で、家族単位で来る方が増大した。	・自家用車利用者の割合が多くなったと思われる。	・電車での来訪者は減り、自家用車での来訪者が大幅に増えた。
9 巡礼者の人数の変化	・団体バスツアーが一切なくなり、減少幅は大きい。 ・個人巡礼者が増えた。 ・年齢層の大きな変化はない	・入込観光客が減少したことから、お寺の利用者も減少したと思われる。	・コロナウイルス流行直後は大幅に減ったが、3~4か月後には屋外散策で密を回避できる点から例年通りの人数に戻った。 ・年齢層に関しては、特に変化はない。
10 コロナ収束後にに向けたバリアフリー面の準備	・特になし。	・バリアフリー面で具体的な準備は予定していない。 ・施設の更新時には必要な対応を行っていく。	・特になし。
11 アフター・コロナでの巡礼で留意すること	・感染症対策が第一。 ・札所巡りの文化の継承。 ・より多くの方(特に若者)に秩父札所を知ってもらおう。 ・気軽に秩父と巡礼を楽しんでもらいたい。	・巡礼に限らず観光全般で、安心・安全に観光を楽しんでもらえるよう、各々が新しい生活様式を実践していくことが大切であると思う。	・コロナ禍以前においても、屋外での観光ができる点をアピールできていない印象があるため、今回を機に、その点を重点的にアピールしていくべきだと感じている。

七草寺 洞昌院 主動線



七草寺 洞昌院 迂回路

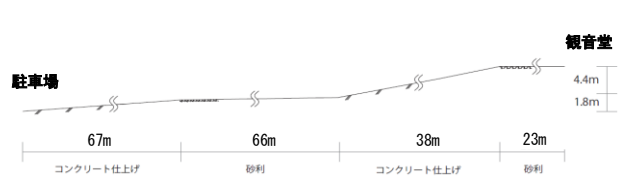


Figure1. Image of human movement trajectory (Toshouin)

(左図はメイン動線、右図は迂回路。模式図のためノンスケール)

メイン動線は緩やかなコンクリート仕上げと砂利の道を進むと、手すりのない計 21 段の階段を通らなければならないが、健脚な方であれば問題なく参拝できる。迂回路に階段・段差はないが、コンクリート仕上げのやや急な坂(11度)を通るので、車いすでのアプローチには信頼できる介助者の同伴が必須である。この調査を、秩父十三仏霊場と長瀬七草霊場の全ての寺院で行う。